令和８年度　滋賀県ソーシャルワーカー３団体合同研修会

開催要項

１．テーマ

「滋賀が被災地になったとき、ソーシャルワーカーはどうつながり、どう動くか」
～受援・多職種連携・地域の特色に応じた支援を考える～

２．開催趣旨

能登半島地震をはじめ、地震・豪雨等の災害が各地で相次いでいます。本県のソーシャルワーカーも県外の被災地への支援に入る経験を重ねてきましたが、一方で「支援を受ける側（受援）」になったとき、私たちが慌てずに動けるかについては、まだ十分に考えられていません。

災害時には、行政・医療・福祉など分野の異なる機関と、発災直後からフェーズが変わっても情報を共有し、協働していくことが求められます。また、湖岸・都市部・山間部など、地域によって起こりうる被害も、頼れる資源や人のつながりも異なります。地域の特色に応じた備えと支援の視点も欠かせません。

そこで本研修では、第一線で災害ソーシャルワークを実践しておられる山本克彦氏をお招きし、「滋賀が被災地になったら」を出発点に、ソーシャルワーカーとしてどうつながり、どう動き、県外からの支援をどこに充てるのかを、参加者のみなさんと一緒に考えます。答えのない問いだからこそ、３団体のソーシャルワーカーが顔を合わせて考える場にしたいと思います。

３．主催

公益社団法人滋賀県社会福祉士会（事務局）、滋賀県精神保健福祉士会、一般社団法人滋賀県医療ソーシャルワーカー協会

４．開催日時

令和８年（2026 年）12 月５日（土）13:00～16:00（受付 12:30～）

５．会場・開催方法

滋賀県立長寿社会福祉センター　第１研修室（滋賀県草津市笠山７丁目８－138）
※会場参加を基本とします。なお、一部別会場でのオンライン聴講も実施予定です（別会場では、第１部（講義）は聴講、第２部（ワークショップ）は見学のみとなります）。

６．定員

会場　100 名程度（先着順）

７．参加費

無料

８．参加対象

①主催３団体の会員および入会資格のある方　②関係機関・団体の方　③学生　④災害ソーシャルワークに関心をお持ちの方

９．内容（予定）

12:30　　受付開始
13:00～13:10　開会挨拶・趣旨説明
13:10～14:20　第１部　講義「ソーシャルワーカーに必要な災害現場の理解」
～災害時、福祉の現場はどう変わるのか～
講師　山本　克彦　氏
日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 教授、
一般社団法人 災害福祉実践研究所（IMAIZA Lab）代表理事
14:20～14:30　休憩
14:30～16:00　第２部　ワークショップ（進行：山本克彦氏）
※内容・進め方は講師にご検討いただきます。
※閉会挨拶・アンケートを含みます。
※第１部（講義）のみのご参加も可能です。

【講師紹介】

山本　克彦（やまもと　かつひこ）氏
日本福祉大学 福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 教授、
一般社団法人 災害福祉実践研究所（IMAIZA Lab）代表理事。
岩手県立大学社会福祉学部准教授等を経て現職。中越地震（2004 年）以降、被災地での子ども支援や学生ボランティアの組織化と運営に携わる中で、災害ソーシャルワークの理論化と教育方法の研究に取り組む。
DWAT と連携する学生チーム DWAS の運営責任者でもある。
近著は『図解でわかる 災害福祉』（中央法規、2025 年）。

10．参加申込

Google フォームにて、令和８年（2026 年）11 月 27 日（金）までにお申し込みください。
申込フォーム：https://forms.gle/VMSR4i5RhZGt6A769

11．その他

・長寿社会福祉センターの駐車場（約 100 台）をご利用いただけます。
・ご質問等がある方は、申込フォームの質問欄にご記入ください。講義の中で取り上げる場合があります。

【問合せ・事務局】

公益社団法人滋賀県社会福祉士会事務局
〒525-0072　滋賀県草津市笠山７丁目８－138　滋賀県立長寿社会福祉センター１階
TEL：077-561-3811（9:30～16:30）　FAX：077-561-3835
E-mail：shiga2944@sirius.ocn.ne.jp